

**川崎重工業株式会社**

広報部 [東京] Tel.03-3435-2130 [神戸] Tel.078-371-9531 www.khi.co.jp

NO.2016033

2016年9月30日

各 位

会社名	川崎重工業株式会社
代表者名	取締役社長 金花 芳則
コード番号	7012 東京① 名古屋①
問合せ先責任者	経理部長 浅野 肇
問合せ先窓口	広報部 (TEL 03-3435-2130)

平成29年3月期第2四半期および通期の連結業績予想の修正ならびに  
 剰余金の配当（中間配当）の決定および期末配当予想の修正に関するお知らせ

川崎重工は、平成28年9月30日開催の取締役会において、平成28年7月29日に公表した平成29年3月期第2四半期（平成28年4月1日～平成28年9月30日）および通期（平成28年4月1日～平成29年3月31日）の連結業績予想を修正するとともに、中間配当を決定し、期末配当予想を修正しましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

## 1. 業績予想の修正

(1) 平成29年3月期第2四半期連結業績予想の修正（平成28年4月1日～平成28年9月30日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する四半 期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回発表予想 (A) (平成28年7月29日発表)	百万円 700,000	百万円 22,000	百万円 22,000	百万円 14,500	円 銭 8.67
今回修正予想 (B)	680,000	4,000	△6,000	△5,000	△2.99
増減額 (B-A)	△20,000	△18,000	△28,000	△19,500	—
増減率	△2.8%	△81.8%	—	—	—
(ご参考) 前期第2四半期実績 (平成28年3月期第2四半期)	708,194	42,305	40,292	26,878	16.08

(2) 平成29年3月期通期連結業績予想の修正（平成28年4月1日～平成29年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する当期 純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A) (平成28年7月29日発表)	百万円 1,570,000	百万円 70,000	百万円 69,000	百万円 49,000	円 銭 29.33
今回修正予想 (B)	1,510,000	34,000	25,000	16,500	9.87
増減額 (B-A)	△60,000	△36,000	△44,000	△32,500	—
増減率	△3.8%	△51.4%	△63.7%	△66.3%	—
(ご参考) 前期実績 (平成28年3月期)	1,541,096	95,996	93,229	46,043	27.56

## 2. 剰余金の配当の決定および期末配当予想の修正

### (1) 剰余金の配当（中間配当）の内容

	決定額 (平成 29 年 3 月期中間配当)	直近の配当予想 (平成 28 年 7 月 29 日公表)	前期実績 (平成 28 年 3 月期中間配当)
基準日	平成 28 年 9 月 30 日	同左	平成 27 年 9 月 30 日
1 株当たり配当金	4.00 円	同左	5.00 円
配当金総額	6,682 百万円	—	8,352 百万円
効力発生日	平成 28 年 12 月 1 日	—	平成 27 年 12 月 1 日
配当原資	利益剰余金	—	利益剰余金

(注) 配当金総額につきましては、基準日における自己株式数が未確定であるため、見込み額を記載しております。

### (2) 期末配当予想の修正の内容

基準日	1 株当たり配当金		
	第 2 四半期末	期末	年間
前回発表予想 (平成 28 年 7 月 29 日発表)	4.00 円	6.00 円	10.00 円
今回修正予想	—	2.00 円	6.00 円
当期実績	4.00 円	—	—
前期実績 (平成 28 年 3 月期)	5.00 円	7.00 円	12.00 円

### (3) 剰余金の配当（中間配当）の決定および期末配当予想修正の理由

当社は、株主価値向上と配当による株主還元をバランス良く実施していくため、将来の業績見通しに加え、フリーキャッシュフロー、負債資本倍率（D/E レシオ）等の財務状況を総合的に勘案し、中長期的な連結配当性向の基準を 30%としています。当期の配当につきましては、平成 28 年 7 月 29 日発表における年間配当予想を 1 株あたり 10 円（第 2 四半期末 4 円、期末 6 円）としておりましたが、平成 29 年 3 月期通期業績予想の修正を踏まえるとともに、安定的な株主還元という点も考慮し、上記のとおり配当予想を修正いたします。

## 3. 業績予想の修正理由

### (1) 為替変動の影響

当社は、従来から為替変動の影響を吸収すべく事業体質の変革に取り組んでまいりましたが、今年度当初からの急激な円独歩高の影響により、売上高、利益ともに大幅に悪化する見通しです。ドル、ユーロに加え新興国通貨を含めた為替変動により、通期の営業損益が約 260 億円悪化する見通しとなりました。なお、悪化額には為替水準の見直しに伴う受注工事損失引当金計上額約 30 億円を含んでいます。また、本業績予想における為替レートは、1 ドル＝102 円、1 ユーロ＝114 円を前提としております。

### (2) 船舶海洋事業の損益の悪化

船舶海洋事業において、為替による影響を除き、次の通り通期の営業損益が約 130 億円悪化する見通しとなりました。

- ① 当社の現地合弁会社であるブラジル Enseada 社向けドリルシップに関し、2015 年度第 3 四半期に損失処理の対象としなかった売掛債権約 50 億円について、今第 2 四半期において以下の事象が生じたことから、その全額を損失処理することとしました。

・ 8 月 12 日に公表された Enseada 社へのドリルシップの実質的な発注元である Sete Brasil 社の Judicial Reorganization（日本の会社更生法に類似した手続き、以下「JR」）による再建計画では、建造継続のための追加資金調達に関する具体策が明らかにされず、ブラジル経済の先行きや

原油価格の低迷を考慮すると、JRの成立に時間を要すると判断されること

- ・昨年度第3四半期に比較して海洋関連市況は更に悪化しており、本船の資産価値そのものも著しく低下していると判断されること

② ノルウェー向けオフショア作業船は、現在、基本設計を受けて詳細設計に移行しつつありますが、以下の要因により通期の営業損益が約60億円悪化する見通しとなりました。

- ・当社として初めて受注した船種であり、設計段階で不具合が発生し、設計費用が当初見積り以上に増加すること
- ・上記に伴い、機器の納期調整に関わる費用や建造費等も増加すること

③ 坂出工場にて、新設計のLNG船の同時建造を行っておりますが、当初見積りを大幅に上回る建造コストが発生する見込みとなり、通期の営業損益が約20億円悪化する見通しとなりました。

平成29年3月期第2四半期連結業績予想についても、為替変動の影響約120億円や、船舶海洋事業の損益悪化約110億円等により、大幅に引き下げることとなりました。

#### 4. 船舶海洋事業の構造改革について

船舶海洋事業における大幅な業績悪化を受け、以下の通り構造改革を進めていきます。

- (1) 事業構造を抜本的に見直すため、社長をトップとした構造改革会議を早急に設置し、事業の継続性を含め今後の方針を検討します。今年度末を目途に結論を得たうえ公表し、実行に移します。
- (2) 現在受注済の船舶に関しては、全社体制で完工します。(受注済みの契約は、引渡しベースで2019年半ばまで)

#### 5. 全社的リスク管理体制の強化

再発防止に向け、あらかじめ見積時点において、設計から製造にわたる包括的なリスクをチェックする管理体制を強化していくとともに、全社的な取り組みとして展開していきます。

こうした取り組みに加え、生産性向上、固定費削減、拡販等の収益改善対策を推進していきます。引き続き、資本効率と成長戦略を追求し、全員参加によるKawasaki-ROIC経営の深化により、企業価値の持続的向上を目指していきます。

#### 6. 役員報酬の自主返上について

業績の大幅な下方修正および年間配当予想額の引き下げを真摯に受け止め、役員報酬の自主返上を実施する予定です。

以 上